

原水爆禁止 2008 年世界大会 - 広島決議 (案)

広島からのよびかけ

「こんなむごいことを二度とくりかえしちゃいけん」——地獄を見た被爆者たちの叫びは、「人類と核兵器は共存できない。核兵器をなくせ」の世界の声となりました。

いまなお 2 万 6000 発の核兵器が世界の安全と平和を脅かしています。核兵器の使用は一瞬にして無数の命を奪い、世代を超えて人びとを苦しめ、文明を破壊します。

2000 年の核不拡散条約 (NPT) 再検討会議で核保有国が受け入れた核兵器廃絶の「明確な約束」をすみやかに実行させなければなりません。2010 年春の NPT 再検討会議は、そのための絶好の機会です。

きょうこの場からはじまる「核兵器のない世界を—2010 年核不拡散条約 (NPT) 再検討会議にむけて」の国際署名は、NPT 再検討会議の場に積みあげて、約束の実行を力強くせまるものです。私たちは、この署名運動を軸にした国際共同行動の先頭に立つ決意です。

アメリカの「核の傘」のもと、危険な核戦略に組みこまれ、原子力空母の配備すら強行されようとしている日本で、「憲法 9 条が輝く非核・平和の日本」を実現していくことは、私たちの世界に対する責務です。

国連の代表をはじめ 34 か国 99 名の海外代表が参加して開催された原水爆禁止 2008 年世界大会は、「核兵器のない世界」をめざす政府と草の根からの運動の共同を誓いあう場となりました。この世界大会に参加した私たちは、その「国際会議宣言」をふまえ、被爆地・広島から日本全国、そして世界のすべての人びとによびかけます。

◇2010 年の NPT 再検討会議にむけ、核兵器廃絶の世論と行動を強めましょう。「核兵器のない世界を」の国際署名を職場・地域・学園でただちに大きくひろげましょう。多彩な創意あふれるとりくみで、世界をつなぐ国際共同行動を成功させましょう。6・9 行動をはじめ日常的なとりくみを強めましょう。国連と諸国政府に核兵器禁止・廃絶条約の交渉開始と締結を要求しましょう。

◇核兵器廃絶と「非核三原則」の厳守を政府に宣言させる「非核日本宣言」運動を各地域でさらに大きくひろげましょう。憲法 9 条を守りいかに国民的な行動と共同をさらに発展させましょう。横須賀への原子力空母配備反対のたたかい、沖縄はじめ全国の米軍基地再編・強化反対のたたかいをひろげましょう。自衛隊の海外派兵恒久法制定に反対し、イラクやインド洋から撤退させましょう。

◇原爆症認定集団訴訟の早期解決と認定制度の再改定を強く要求しましょう。世界各地、全国津々浦々で原爆展、被爆者の証言活動にとりくみましょう。被爆者とともに、その体験や願いを受けつぎ、次の世代と世界に伝える活動をいっそう強めましょう。

被爆者とともに、若い世代とともに、力をあわせ、いまこそ行動に立ちあがりましょう。
ノーモア・ヒロシマ！ ノーモア・ナガサキ！ ノーモア・ヒバクシャ！

2008 年 8 月 6 日

原水爆禁止 2008 年世界大会-広島

原爆症認定問題のすみやかな解決を要求します

人類最初の核戦争の惨禍から 63 年。広島と長崎の原爆はおびただしい命を奪い、いまなお多くの被爆者を苦しめつづけています。

広島・長崎の被爆者による、「国は、自分たちの病気や障害が原爆によるものだと認めるべきだ」という原爆症認定集団訴訟は、いま重要な局面を迎えています。すでに 8 つの地裁、2 つの高裁で被爆者勝利の判決が下されました。

これらすべての判決は、残留放射線の影響の無視など、原爆被害を過小評価し、切り捨ててきた従来の原爆症認定基準をきびしく批判して、被爆状況や健康状況など全体的、総合的に判断すべきだとしました。

認定行政の誤りが否定しがたくなるなかで、国はついに見直しを迫られ、今年 4 月から新基準が実行されました。しかし、その後の判決が示すように、これもなお被爆の実際にあっており、新たな線引きを行うものです。

国は、認定基準の再改定を認めず、裁判をつづけようとしています。これ以上、被爆者を苦しめることは許されません。私たちは、原爆症認定集団訴訟の早期解決と認定基準の再改定を強く要求します。

「人類と核兵器は共存できない」と訴えつづけた被爆者の声は、核兵器のない世界を求める大きな流れをつくりだしました。核兵器の廃絶と被害への補償によって、被爆者と遺族の苦しみが一日も早く癒されるよう、被爆者援護・連帯の世論と運動をさらにひろげていきましょう。

ノーモア・ヒロシマ！ ノーモア・ナガサキ！ ノーモア・ヒバクシャ！

2008 年 8 月 6 日